

令和7年度第1回地域連絡協議会 議事概要

日時：令和7年9月29日（月）19時00分～20時00分 横浜中央病院4階会議室

委員長	川田望	（横浜中央病院病院長）
副委員長	秋山修一	（横浜市中区医師会会長）
地域会員	品田 和紀	（横浜市中区福祉保健センター 高齢・障害支援課長）
	田邊 栄久	（横浜市中消防署署長）
	蕭 敬意	（横浜市中区歯科医師会会長）
	深澤 仁	（横浜市中区薬剤師会会長）
	吉崎 智洋	（横浜市中区社会福祉協議会事務局長）
	唐澤 波江	（山下町町内会副会長）
	大岩 功治	（横浜中央病院副院長）
	岸本 裕一	（横浜中央病院副院長）
	藤川 博敏	（横浜中央病院副院長）
	中島 伸哉	（横浜中央病院統括診療部長）
	三松 謙司	（横浜中央病院院長補佐）
	岡崎 友香	（横浜中央病院看護部長）
	中内 大輔	（横浜中央病院事務部長）
司会進行	櫻木 敬	
事務局	高橋 中司	

I 開会の挨拶

【川田院長】

皆さんこんばんは。院長の川田でございます。JCHO 横浜中央病院地域連絡協議会ならびに地域医療支援病院運営委員会にお集りいただきありがとうございます。地域医療支援の構想は平成9年医療法改正に基づき創設されました。当院では令和3年11月30日に横浜市より認可が下りています。当院についてですが、地域医療に貢献できるよう地域の方々のニーズにお応えし、地域住民の生活を支えるため、皆様の立場に立った医療を従来から提供してまいりました。本日は当院がどのような変化、さらに進歩しているかご指導いただく会となっております。どうぞご意見をいただけますようお願いいたします。今回は特別ですが、お知らせがあります。11月28、29日にパシフィコ横浜に

て JCHO 学会が開かれます。横浜中央病院に与えられた役目というのは地域を作るという莫大なテーマでシンポジウムが開催されます。シンポジストとして横浜市消防局、医療局、ホテル、さまざまな方を予定しています。もちろん私も出席いたします。お時間赦す限りご参加いただきたくお願いいたします。

Ⅱ 副委員長の挨拶

【秋山副委員長】

皆様こんばんは、中区医師会の秋山でございます。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。日頃お世話になっている中央病院さんがよりよい病院になるために皆様のお知恵を拝借しながら話し合う場なのでぜひ思ったことを意見で出していただくとありがたいと思います。短い時間ですがよろしく願いいたします。

Ⅲ 議事

議題 1 地域医療支援病院としての運用について（資料・グラフより説明）

1-1 近況報告 紹介率・逆紹介率と救急患者の受入れ状況

地域医療支援病院承認要件として、当院では紹介率 50% 逆紹介率 70% 以上を採用し、この委員会において状況を報告させていただいております。本年度の紹介率の推移ですが、8月までの累計は 80.7% で承認要件を達成しております。続いて逆紹介率の推移ですが、8月までの累計で 108.0% でこちらも承認要件を達成しております。

まずは救急搬送受入れ件数と応需率は、8月までの受入れ件数は累計で 1,792 件、応需率は 83.6% で前年度実績を若干下回っています。次に入院率です。8月までの累計で 38.5% となっています。前年度の実績をほぼ上回っています。

直近 8 月の各診療科の受入状況は搬送依頼数時間内 175 件、時間外 302 件合計 477 件の搬送依頼に対して、搬送件数は時間内 152 件、時間外 235 件合計 387 件応需しています。

1-2 今年度の研修実績及び予定

地域医療支援病院の承認要件に医療従事者に対する研修を年間 12 回以上実施するとなっており、ご報告いたします。1 から 5 まではすでに開催終了しております。それ以降はこれから開催する研修となっています。

議題Ⅱ 紹介数・紹介率・患者数患者対比

今年度は6月、7月は前年度より増加しましたが、それ以外の月は減少しており、合計数も減少しています。紹介数が減少しているせいで外来患者数、入院患者数が減少している印象です。

簡単ですが、資料のご説明は以上でございますがご報告いたします。

Ⅳ意見交換

【大岩副院長】

地域支援病院の運営に関わる紹介、逆紹介についてお話を進めさせていただきます。資料のほうでご参照頂いた通り紹介率、逆紹介率ともに基準は満たしておりますが、実際特に紹介率が数字では達成できている風ですが、年々減少してきています。率ではなく数のほうが大事で、そちらの数が減っているということが問題だと思えます。ひとつには近隣の医療状況が変わってきていると伺っています。秋山先生にお話を伺いたいことと、あと我々がどういふ努力をすることで、紹介数を増やしていけるか、外来数の減少を食い止められるかというところまで、皆様のご意見をお聞きしたいと思っています。まずは地域の状況を秋山会長よりご意見いただければと思います。

【秋山副委員長】

病院の経営不振はマスコミでも問題視されていますが、開業医が逆に儲かっているかのようなイメージで世間では通っているようですが、開業医の中でも20%収入減となっていて赤字に至っている医療機関も数々ございます。まだ今年度の数字は出ていませんが会員の中からはかなり赤字になるという深刻な話は出ています。外来患者数もおおよそですが、2割くらい減っているイメージです。これはコロナ禍からの受診控えもあるし、経済的にも色々な面で疲弊しているということもあり、気軽に医療機関に通うとか、今まで毎月通っていた患者さんも処方を増やして3か月に1度にするなど受診控えは目の当たりにしている状況です。先日大岩先生が医師会に来てお話をしてくれましたが、会員の中ではこのような患者を送っていいのか、迷惑にならないかなどの危惧が非常にあるようで、なのでそのあたりの敷居を低くする工夫というのがひとつヒントになるのかなと思っていて、実際大岩先生が動いてくださる流れができていふと思うので、いち早く実践して各会員からの幅広い受け入れ態勢をとっていただくことがとりあえず一番簡単な方針になるかと思っています。宜しくお願い致します。

【大岩副院長】

ご意見ありがとうございます。我々クラスの病院で敷居が高いと思われてしまうことが問題なので、そこは工夫が大切だと思いますし、実際当院の医師がそのような態度をとってしまっているかもしれ

ないということも問題かと思われます。ご紹介いただいた患者様のお返事にそのような言葉がにじみでてしまっているかもしれないということはあってはならないことだと思います。そういうことが敷居を高くしてしまっている要因かもしれないので注意をしなければならないと思いますが統括診療部長どうですか。

【中島統括診療部長】

自分は救急の委員長をやっているのですからの観点から見ることになりますが、近隣の先生方からの緊急の受診依頼についてお話をさせていただきますと敷居が高いということですが、とりあえず依頼をしていただければ療養支援科の看護師と地域連携室の事務が対応に当たっていると思うんですが、大方そこで受入れを決定してから医師へ依頼しているような流れになっていてこれを限りなく100%に近づけることで受け入れ態勢はできていると思います。昨年は400件くらい依頼があった中、10%くらい断ってしまってます。ただ、感染の疑いなどで個室管理が必要だけど個室があいていなかったとか緊急手術適用だけ、外科医師がまさに手術中で対応できなかつたりとか致し方なくのお断りとなっていたようで、今年度はそこを全部受け入れられるよう邁進しているところでございます。

【大岩副院長】

救急患者の受入れは実は療養支援科の看護師が一括で受けるというほかの病院でなかなかできていないことを当院では行ってそれを導入しています。救急の受入れに関しては敷居は関係なくとれると思います。あとは外来にご紹介いただいた際にうちの適応じゃないなどということはないですね。そのあたりはどうですか。

【藤川副院長】

基本的にはどんな患者さんも受け入れるという姿勢でいます。むしろ当院は老朽化していて古い病院で、それでもご紹介いただいているという気持ちでお受入れをして徹底的な接遇をと言っていますが、それでも先ほど大岩先生が話されましたが紹介状の返事の質が悪かったり、救急隊に対する態度が悪かったりそのようなことがございましたらどうぞ遠慮なく言っていただきたいと思います。でもそのようなことが積み重なって紹介数が減っているのかなとも考えています。

【秋山副委員長】

中区医師会に聞く横浜中央病院のドクターの評判は非常に良いです。先生はよいのになんでという感覚は持っているようです。それ以外になにかちょっとお願いしにくい何かがあるのかもしれないですね。

【大岩副院長】

田邊署長、救急隊に失礼な態度をとっているような医師がいれば、正直に言ってきていただきたいです。

【田邊委員】

救急隊から私たちは虐げられているんですかと言われていて、どういうことかと聞くと傷病者の方にも怒鳴られ暴力を振るわれ、病院に連絡すると下に見られてなかなか話も聞いてもらえないというような話もしていて、やっぱりそういったことはあるんだろうなということは把握しています。みなと赤十字病院さんからもそういったことがあったら教えてくださいと言われましたのでもしそういうことがありましたら伝えさせていただきますのでよろしくお願いします。

【大岩副院長】

ありがとうございます。我々ができていることとそう思っていないながらもできていることもあると思いますので日々考えていきたいと思います。

次に品田さんにお伺いします。明後日中福祉高齢者の医療介護連携会議がありますが、その中でも医療と介護連携ということで介護のほうからお手伝いできるような問題、紹介たとえばうちですとレスパイト入院というのがあるのですね。そういったところに視点をもう少し向けたいと考えていて、そのような需要があるのか等をおききしたいです。

【品田委員】

年に2回医療と介護の連携推進会議というのを中区で行っていて、やはり介護の事業者さんから医療の先生たちとの繋がる機会を多く求めているという現状はございます。レスパイトについてなど先生方よりお話をいただくとそういった利用のニーズはだいぶあるような印象です。介護をされている方向けに区の事業として心のケアというようなことは行っているのですが、身体的な面ではサポートできないので、そういった取り組みを広く周知し、かつ対応いただけるということは大きく医療介護の連携が進み、地域の高齢者、障害者の方の要望もご対応いただければなおありがたいと思います。

【大岩副院長】

ありがとうございます。レスパイトについてはうちの看護部長より話があるとおもいます。

【岡崎看護部長】

当院は地域包括ケア病棟を保有してしましてレスパイト入院の受入れをしています。レスパイト入院は一般的には2週間くらいが目安ですが、ご家族やワーカーさんにとってはハードルが高く感じてしまうのかというところで、体験レスパイト的なものを今後考えていますので、ご相談いただければと思います。

【大岩副院長】

レスパイトはあまり知られていなかったりするので、周知が足りていないのかなと感じていまして、なので一度体験をしていただいて、ご理解いただけましたら、継続して活用していただければと思っています。ご興味があれば今度の会議にでもお話をさせていただければと思っています。

障害者の方の受入れはなかなか難しいことも多いかもしれませんが、外科部長として三松先生何かありますか。

【三松院長補佐】

色々な障害があるので一概にはなかなか言えないですが、まずはお声掛けいただければそこは我々病院で出来ることはさせていただきますので、お声掛けください。

【大岩副院長】

障害者支援センターの方がすごく困っているということを当院でも知っておくことでお手伝いができることもあるかもしれませんので、お声掛けください。次に吉寄様からお話お聞かせください。

【吉寄委員】

我々が直接相談するという事はないことかもしれませんが、地域包括ケアプラザの中で地域包括支援センターがありますので、行われている研修の一環としてケアマネジャーさんたちにお話していただけるとより身近に感じられたりするのかなと思います。我々は病院さんというよりは地域の方々とのお付き合いがあったりするのですが、どちらかというとなり低所得の方が多かったですりするので病院行きたいけれどお金がないからいけないというような話があったりするので世間での物価高もそこに影響があったりするのかもしれないです。あと、地域の方々には講座でお話をくださる先生方を身近に感じたりすることもあると思うので、していただくと中央病院さんにいこうかなと思ったりもするかもしれないですね。

【大岩副院長】

そうですね、レスパイトなどの話を市民講座のようなかたちで出来たらいいと思っているのですが、その場をどのように設ければいいのかなということがわからないので、開催可能ならば自分や関係者にお声掛けいただき、ボランティアで行いますのでよければご検討いただけますと嬉しいです。紹介の中でこのレスパイトというのは非常に重要で他の関連病院ではかなり積極的に行っていることが分かっていて、うちはまだまだ出来ていないので、このお話をこの場でさせていただきます。うちは地域包括ケア病棟をもっていますので、他の地域の病院とはまた違った関係を持つことができるとおもいますし、そのことを知っていただけることが大切だと思いますのでまだうちの周知が足りていないと思います。山下町内の皆様にもお知らせできていません。

【唐澤委員】

この会にでるので、ふれあいサロンで皆さんから話を聞いてきたのですが、一つは最近带状疱疹にかかったサロンの方が何人かいて、病院行くのにどこにいったらいいのかとか、どのように予防したらいいのかとかわからないといっていました。結局どこかの病院へかかったみたいですが、皆さんが興味あるようで、次回のふれあいサロンの講座は带状疱疹のお話を聞きたいといっています。

【岸本副院長】

感染の担当をしています。ぜひ、では带状疱疹について話をさせていただきます。やはり我々からのアピールがまだできていなかったのかと思っています。带状疱疹にかかったら、皮膚科になります。

【三松院長補佐】

当院ペインクリニックもあり、带状疱疹にかかったあと痛みがあるので、ぜひ、皮膚科とペインクリニックで対応します。

【藤川副院長】

带状疱疹はいま予防のワクチンがありまして、コロナのワクチンと同じ原理で作られていてかなりの効果で予防できます。2回打つのですが10年間効果があるといわれていて全国的に助成金の制度があるので、ご活用いただければと思います。うちの病院でもワクチンを積極的に行っています。ワクチン接種は内科で、かかってしまったら皮膚科、かなり状態が良くない場合は入院での対応もできます。その場合は総合診療科も入り皮膚科と合わせて対応します。この次は带状疱疹についてお話しします。

【唐澤委員】

是非お願いします。講座をして下さる日はサロンも人が集まります。

【大岩副院長】

つづいて救急についてですが、昼間は支援看護師が全部取るということで動いています。夜間は夜間当直の体制でやっているのですが、2次救急拠点病院Bから輪番病院になっている状況で問題点があればご意見いただければと思います。

【田邊委員】

特に救急隊から問題があるとは聞いていないので特になにかということはないと思います。救急搬送自体が昨年から比べ今年は減っているので8月末までで4.5%減となっていて市内全体で1日30件くらい減っています。その要因とはなんなのかと考えたときに、昨年より感染症の蔓延がそこまでではないということと、安心救急、予防救急のような広報をおこなっているんですけど、その効果だといっているんですが、現状を見守っているところです。近隣の都市はどうかというと川崎は2%く

らい、相模原も4%くらい増えている、東京は1.2%くらい減っているのですが横浜の減り方は近隣の都市と比べても大きくなっています。昨年の夏ほんとに多い時は救急車が枯渇して出動待ちが40件あるということがあったのですが今年はそれが一切なくなっているのも市民の方にとっては良い状況かなと思っています。

【大岩副院長】

当院でもパラメディックさんという民間救急を使わせていただいて、搬送の過多にならないようにと民間救急でも大丈夫なケースの場合はそちらを推奨させてもらってます。救急担当中島先生なにかありますか。

【中島統括診療部長】

救急を受ける医師のスキルにもよってしまいますが日によって受入れ件数の違いがあるんですが、なるべくイーブンになるように指導していきたいと思っています。宜しくお願いします。

【大岩副院長】

続いては、蕭先生より紹介に関してご意見いただけますか。

【蕭委員】

紹介に関してはそんなに差はないかと思いますが、ただ、施設の見え方といいますかやはり患者さんが紹介先を選ぶときに選ばれにくいと言いますか、どうしてもそうになってしまうようです。

【大岩副院長】

施設に関してだけは申し訳ないですが今の古い外観がデメリットになってしまうことは否めません。

【蕭委員】

先ほどレスパイトのお話がでていましたが、1年半ほど前自分の父が搬送されたときかかりつけが市大だったので市大に行って市大がこれくらいのレベルではうちの対応ではないと出してしまったんですね、でも本人は意識もないしどうしようと思っていて、若い先生が次の受け入れ先を探してくれていたんですがなかなかみつからずにようやく見つかって転送になってその転送先の病院で息を引き取ったんですけれど、そういった受入れの体制について不思議に思っているんですが実際どうなんですかね。

【大岩副院長】

うちは市大と連携協定病院に今はなっているのでそういった症例は当院へ下り搬送となると思いますが、そのときにはまだ協定を結んでいなかったから連絡が来ていなかったと思われます。今は体制が整いましたので今後は大丈夫かと存じます。

【蕭委員】

それならば安心できますね。

【大岩副院長】

最後になります。薬剤師会長深澤先生、在宅医の先生とかなり連携されていると思いますが、薬剤の先生方から在宅医の先生へ在宅の患者さんの受診に関してアドバイスなどあったりしますか。

【深澤委員】

我々からそういった提案はなかなかできませんがご家族が希望していますとかレスパイトのことも最近ではケアマネジャーさんから聞いているようでおかかりがある病院に行かれるケースもありますがこの近隣では横浜中央病院さんがありますよと伝えてそうしますといったケースもございます。

【大岩副院長】

在宅薬剤管理をしていると先生に患者さんやケアマネジャーがしたりする体制って結構あると思いますし、町の薬剤師さんでいま医療と一緒にされているというお話をよく聞きますので深澤先生にはぜひお力添えをお願いしたいです。

【深澤委員】

私が肌で感じる感覚ですと中央病院さんはすごく地域には根付いてきているなという感じがあります。それでいて色々な科を持っていてかかっていたら何かあった時入院させてもらえると思われていることがありまして、実際救急車を呼んで横浜中央さんにと思っていた患者さんが別の区の山の上の中央病院へ運ばれてしまい、家族が困ったといった事例がありました。

【大岩副院長】

救急搬送として、田邊署長にお願いしたいですが、区外にいかずに区内で搬送をお願いできればとおもいます。我々のほうもがんばりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

【田邊委員】

ご希望がなければそういったことはないとは思いますが・・・

【蕭委員】

おそらくうちの職員で、自宅がそちらの方だったような気がします。

【大岩副院長】

まとまりがなくて申し訳ないですが、紹介率をあげるということはひとつは患者さんを病院のほうへむけていただくには開業医の先生方からの依頼を増やしたいけれども先ほど医師会長よりお話がありました通り診療所自体が厳しい状態のようですが、それでも病院側としてはもっと敷居を下げる努力をしていかなければならないと思いますし患者さんに誠心誠意対応する努力も必要だと思います。あとは介護でお困りのご家族にむけてレスパイトという形で、それができる病院というのは限られているのでそういう面で当院でできるということをインフォメーションしていきたいと思います。救急体制に関しては我々の病院としてはいま看護側が一括して受入れをする体制にして積極的に応需率をあ

げる努力はしておりますので、ご理解をいただけますようお願いいたします。以上まとめとしました。たくさんのご意見をありがとうございました。

【岸本副院長】

今日はありがとうございました。いつもこの会は活発な意見がでてよかったと思いますが秋山会長より2割患者が減っているというお話でまさしくその通りとなっていてうちでは絶えず200人くらいの入院患者がいたのですがこの1年間は160から180人という非常に厳しい数で推移しています。当然経営状態は悪くなってしまっていてだからと言って患者さんが全体的に減っているから仕方ないということで何もしないわけにはいけないので、当院の敷居を下げるのが一番大事なのかというところですが、敷居が高いと思っている先生方がいらっしゃるのが不思議でならないのですが、でもそう思われている開業医の先生方へ敷居は高くないと伝えるにはどうしたものかと考えていけないといけません。ありがとうございます。何か良い意見があったら教えてください。あとひとつ明るい話題があるのですが我々3月に機能評価を受けたのですがこのような古い外観の病院でも無事受審が通りましたのでお伝えいたします。本日はありがとうございました。

以上